

# 経済・金融 フラッシュ

## 【7月米貿易統計】 7月も貿易赤字は縮小、3カ月連続

経済研究部 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

### 1. 結果の概要: 3カ月連続の赤字幅縮小

9月4日、米商務省の国勢調査局および経済分析局（BEA）は7月の貿易統計（速報値）を公表した。7月の財・サービスを合計した輸出額（季節調整済<sup>1</sup>、国際収支ベース<sup>2</sup>）は1980.23億ドル、輸入額（同）は2385.68億ドルとなり、貿易収支は▲405.46億ドル（前月改定値：▲408.10億ドル）であった（図表1）。市場は7月の貿易収支で▲424億ドル（Bloomberg集計の中央値）と赤字幅の拡大を予想していたが、予想に反して赤字幅が縮小したことになる。貿易赤字は3カ月連続で縮小しており、7月の縮小幅は小幅にとどまったものの、6月と比べて赤字幅は2.64億ドルだけ縮小している（前月は同26.55億ドルの赤字縮小）。

輸出入の伸び率を前月比年率で見ると、輸出は+11.7%（前月：同+0.2%）、輸入は+8.2%（前月：同▲12.4%）となった。前年同月比では、輸出が+4.3%（前月：同+3.1%）、輸入が+4.0%（前月：同+4.4%）であった。貿易収支を前年同月の2014年7月と比較すると11.27億ドルの赤字幅拡大だった（前月は42.58億ドルの赤字幅拡大）。

7月は輸出入ともに、前月比で見ても前年同月比で見ても伸び率が加速した。前年比の伸び率はそれほど高いとは言えないが、グロスの貿易量が増えていることから、貿易を含めた経済活動が活発になりつつあることが示唆される結果と言えるだろう。

貿易収支については3カ月連続して赤字幅が縮小したが、工業用原料（石油・石油製品含む）の輸入の減速が主因であり、資本財や車両関係の輸入は増加が続いている。今後は米国の景気拡大に伴って輸入の伸びが加速し、貿易収支の赤字幅が拡大していくと思われる。

(図表1)



<sup>1</sup> 以降、本稿では特に断わりのない限り、季節調整済系列について記載する。ただし、国別の貿易収支については月次ベースの季節調整系列が公表されていないため、原系列について記載する。

<sup>2</sup> 財貿易に関しては、国勢調査局が通関データを取りまとめ（センサスベース）、BEAで国際収支統計や国民経済計算に沿ったデータに修正している（国際収支ベース）。ただし、品目別や国別の財貿易（月次ベース）はセンサスベースのみ公表されている。

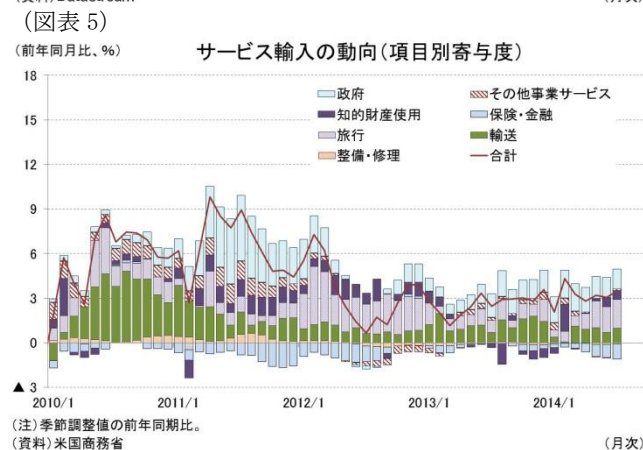
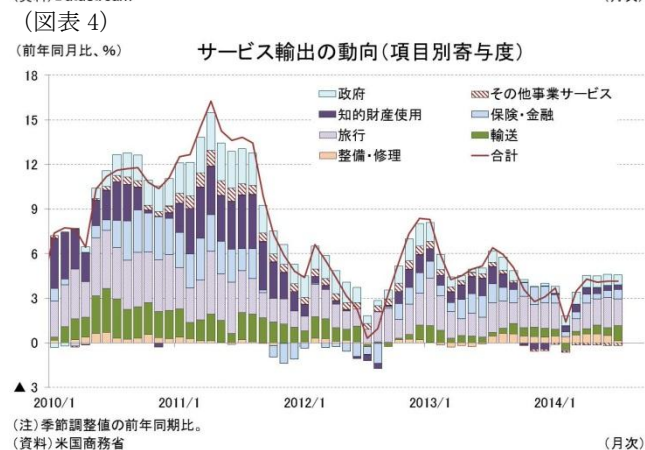
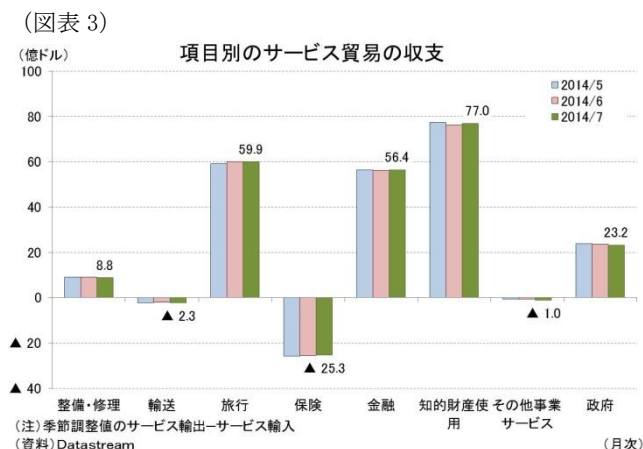
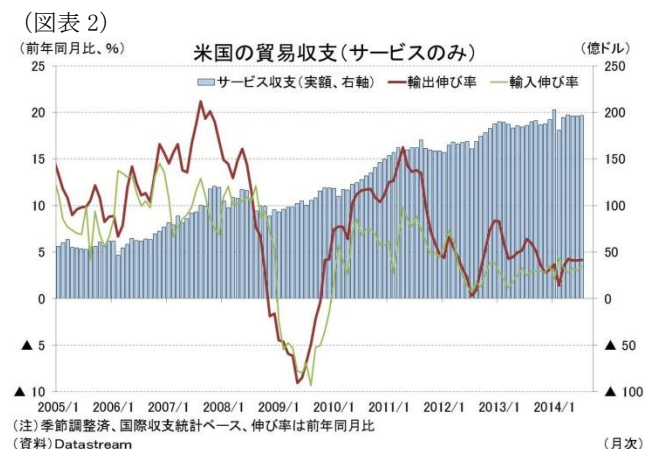
## 2. 結果の詳細:非石油財貿易も2カ月連続で赤字幅縮小 (サービス貿易)サービス貿易の黒字幅が拡大に転じる

7月のサービス貿易(国際収支ベース)を見ると、輸出額が594.48億ドル(財・サ輸出に対するシェア30.0%)、輸入額が398.03億ドル(財・サ輸入に対するシェア16.7%)となり、収支は196.45億ドル(黒字)であった。前月比年率の伸び率は、輸出が+1.4%(前月:同+3.5%)、輸入が+0.7%(前月:同+5.8%)、前年同月比の伸び率では輸出が+4.2%(前月:同+4.1%)、輸入が+3.5%(前月:同+3.0%)となった。

サービス収支は黒字基調が続いているが、5・6月については前月比で見た輸入の伸びが輸出を上回っていたため、サービス収支の黒字額が減少に転じていた。しかし、7月は輸出の伸び率が輸入の伸び率を上回り、小幅ではあるが3カ月ぶりにサービス収支の黒字が増加に転じた(図表2、7月は0.44億ドルの黒字の増加、196.01億ドル→196.45億ドル)。

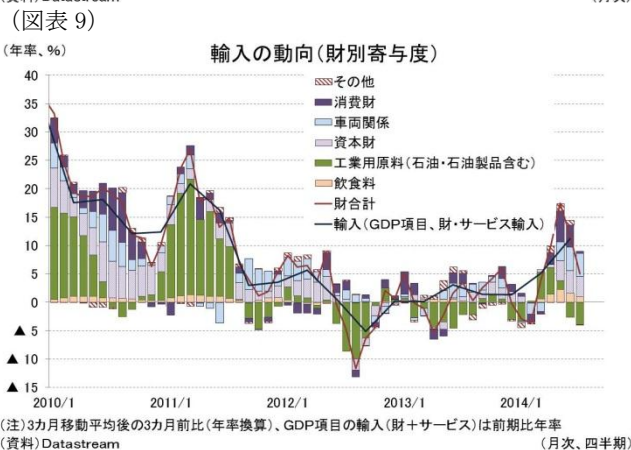
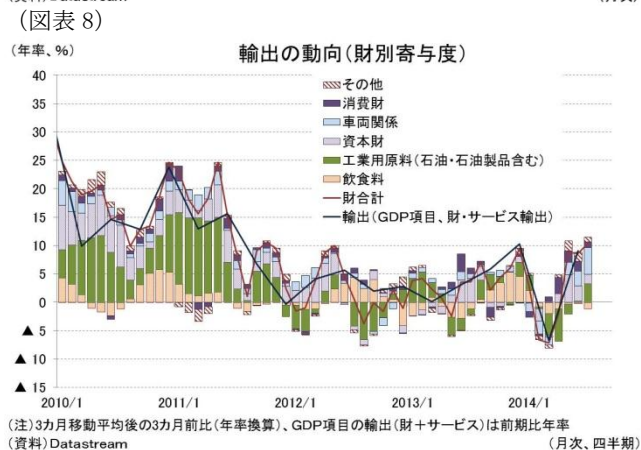
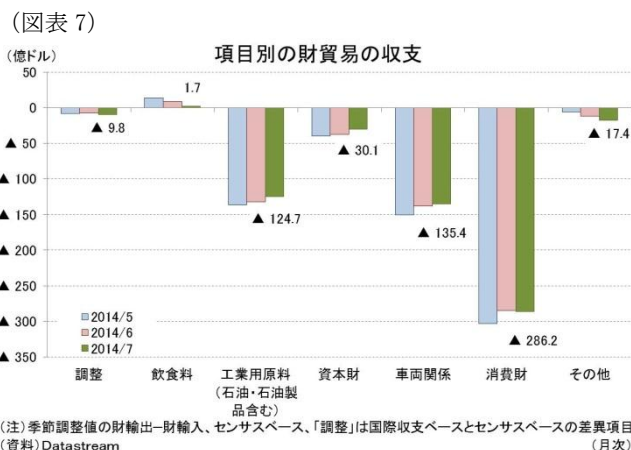
項目別に見ると、旅行、金融、知的財産使用権の各種サービスが相対的に大きな黒字を計上していることがサービス貿易全体の黒字につながっている(図表3)。7月は金融と知的財産使用権の黒字幅が拡大したことが、貿易黒字の改善に寄与した。一方で旅行収支の黒字幅はやや縮小した。

輸出入の伸び率(前年同月比)をそれぞれ項目別に見ると(図表4・5)、輸出はこれまでと同様に、旅行が伸びを牽引している。7月は輸送の伸び幅が拡大する一方で、整備・修理の伸び率にやや鈍化が見られたことで全体の伸び率は前月並みにとどまった。輸入については、輸送、旅行、知的財産使用権、政府が伸びを牽引しており、7月はこれらの項目が全体的に伸びを加速させている。



## (財貿易・項目別)工業用原料が輸入の伸びを抑制

7月の財貿易を見ると、輸出額が1385.74億ドル(財・サ輸出に対するシェア70.0%)、輸入額が1987.65億ドル(財・サ輸入に対するシェア83.3%)となり貿易収支は▲601.91億ドル(赤字)であった。伸び率は前月比年率で見ると、輸出が+16.5%(前月:同▲1.2%)、輸入が+9.7%(前月:同▲15.6%)、前年同月比では輸出が+4.3%(前月:同+2.6%)、輸入が+4.1%(前月:同+4.7%)となった。

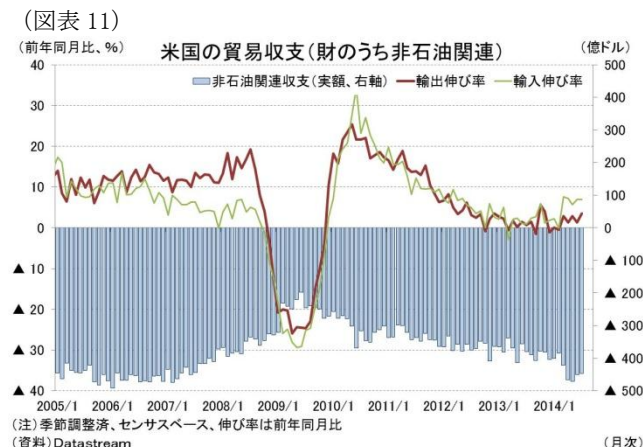
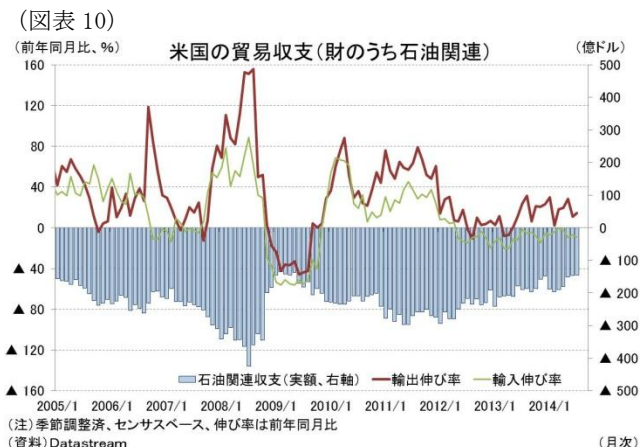


貿易収支はサービスを除いた財収支(国際収支ベース)のみで見ても3カ月連続で赤字幅が縮小する結果となった(図表6、センサスペースで見ても3カ月連続して赤字幅は縮小している)。背景には工業用原料、資本財、車両関係で赤字幅が縮小したことが挙げられる(図表7)。

品目別の伸び率(3カ月移動平均後、3カ月前比)を見ると、輸出は車両関係を中心に伸びを加速させている(図表8)。輸入は資本財、車両関係を中心に拡大傾向にはあるが、6・7月は石油などを含む工業用原料の輸入が減っており、全体の輸入の伸びを抑制している(図表9)。

非石油関連と石油関連に分類した貿易収支を見ると、傾向としてはシェール革命の影響などから石油関連の収支の改善が続く一方で、非石油関連の赤字幅が拡大していることが分かる(図表10・11)。6・7月は石油関連だけでなく、非石油関連の赤字幅も縮小しているが、前年同月比の伸び率で見ると輸入伸び率が輸出伸び率を上回る状態が続いていることから、こうした非石油関連の赤字幅が縮小する現象は一時的であり、近く赤字幅の拡大に転じるものと予想される(図表11)。

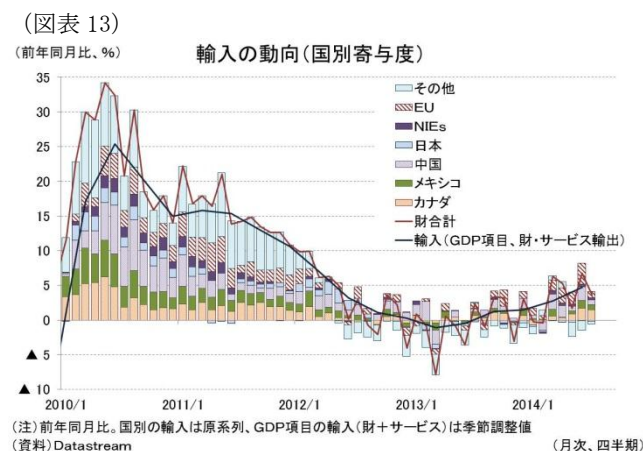
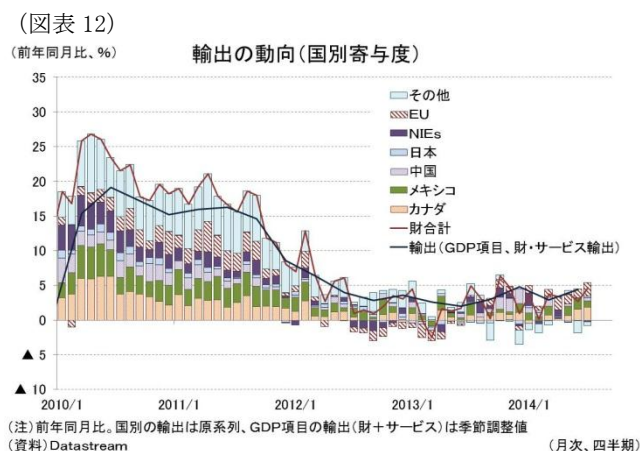




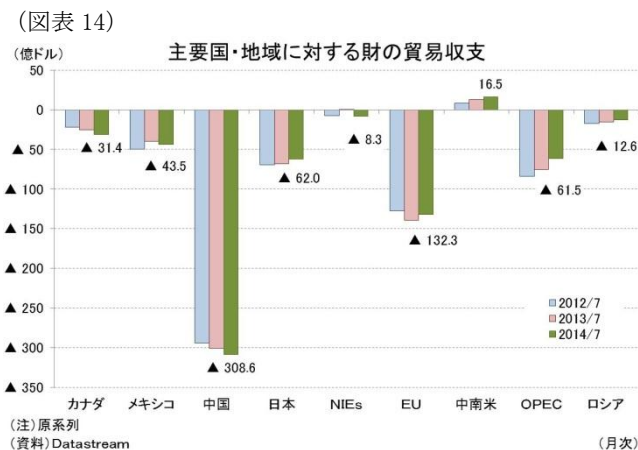
### (財貿易・国別)EU向けの貿易赤字が前年に比べ縮小

7月の国別の財貿易(原系列、センサスペース)の伸び率(前年同月比)を見ると、輸出については、NAFTA域内(カナダ・メキシコ)やEUを中心に緩やかな拡大が続いている。ただし、それ以外の地域については力強い伸びが見られず、全体としては伸び悩みが続いていると云える

(図表 12)。一方、輸入についてはNAFTA域内からの輸入拡大が全体の輸入の伸び率を押し上げている。7月はEUや中国からの輸入伸び率が減速したことで全体の伸び率も鈍化したが、月次の輸入伸び率は振れが大きいので、今後の動向を確認する必要があるだろう(図表 13)。



主要国・地域に対する財貿易の収支については(図表 14)、中国に対する赤字幅の拡大が続いていることが特徴的である。また、NAFTA域内の貿易収支もやや赤字幅の拡大が見られる。一方、EUについては前年と比較して輸出入ともに増えているが、輸入の伸びが限定的だったために、貿易収支の赤字幅は改善している。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。